

# アンケートWGの活動報告

アンケートWG 中村光(名古屋大学)

# アンケートWGメンバー構成

主査	楠 浩一	東京大学	日本建築学会
幹事	岩波光保	東京科学大学	土木学会
委員	上田多門	深圳大学, チュラロンコン大学	土木学会
	勝見 武	京都大学	土木学会
	高橋良和	京都大学	土木学会
	中村 光	名古屋大学	土木学会
	羽藤英二	東京大学	土木学会
	渡邊武志	パシフィックコンサルタント	土木学会
	真田純子	東京工業大学	土木学会
	藤原寅士良	JR東日本	土木学会
	新美達也	パシフィックコンサルタント	土木学会
	三輪準二	土木学会	土木学会
委員	野口貴文	東京大学	日本建築学会
	田中麻里	群馬大学	日本建築学会
	兼松 学	東京理科大学	日本建築学会
	斎藤雅也	札幌市立大学	日本建築学会
	瀬田史彦	東京大学	日本建築学会
	小野寺篤	建築学会	日本建築学会

## アンケートWGの活動状況

---

### □ 土木学会と日本建築学会の連携に関する1次アンケート(2022年9月実施)

- ✓ 連携に対する考え方を知るための簡易なアンケート  
→2022年12月のシンポジウムで報告。Webに結果掲載

### □ 土木学会と日本建築学会の連携に関する2次アンケート(2023年9月実施)

- ✓ 1次アンケート結果を受けて、連携に対する詳細なアンケート
- ✓ 学生と社会人に分けて調査
- ✓ 志望理由、仕事への意識、学会への意識、待遇や社会価値など建設業全般に  
関わる意識調査も追加

→2023年10月、2024年11月のシンポジウムで結果速報報告。  
Webに発表資料掲載。

2次アンケート結果の詳細分析結果を、12月中旬  
までに公開。

## 2次アンケート回答者の属性

単位:人

回答者	総数	3,992(532)					
	学生	354(96)			社会人	3,638(436)	
	土木	176 (34)	建築	169 (59)	土木	1,711 (143)	建築
	土木建築 以外の 理系	7 (2)	その他 文系	2 (1)	土木建築 以外の 理系	247 (36)	その他 文系
							93 (24)

※( )内は女性の数

- ・信頼レベル95%、許容誤差±5%の必要サンプルは384
- ・上記信頼性を有する回答は全体、社会人全体、社会人女性全体、土木全体、建築全体となる。

## 設問一覧

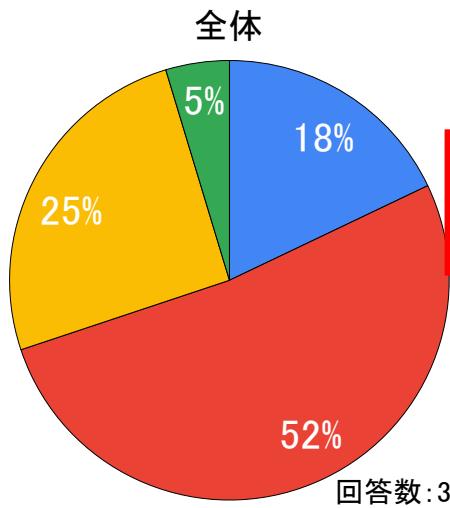
NO.	設問
1	回答者の基本情報
2	回答者の専門分野情報
3	志望理由ならびに土木・建築分野に対するイメージ
4	土木・建築分野の役割に関する意識
5	興味のある業種、地位・役職、活躍の場に関する意識
6	学会活動への意識
7	土木と建築の連携に関する意識
8	働き方や社会からの評価に関する意識

今回は、「8. 働き方や社会からの評価に関する意識」の分析結果の紹介

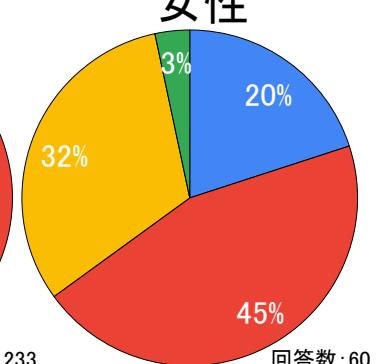
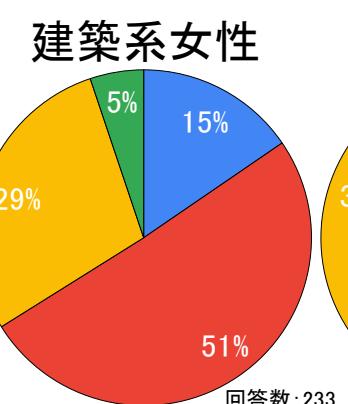
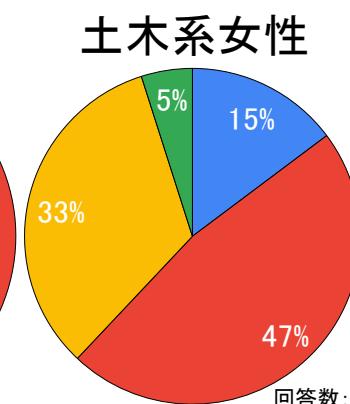
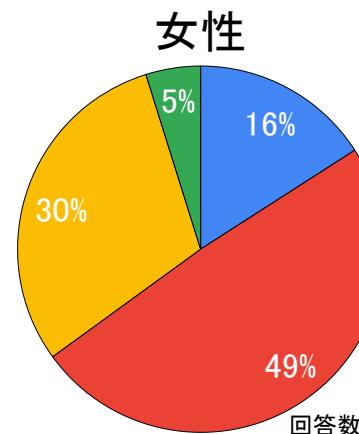
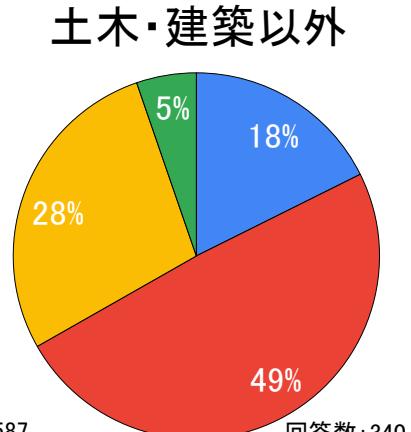
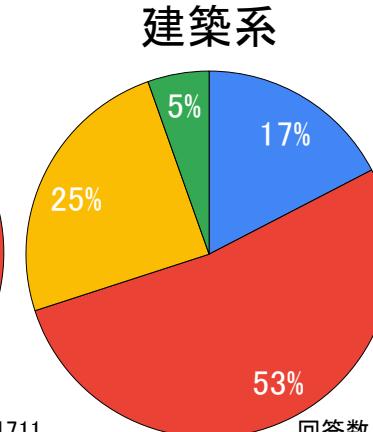
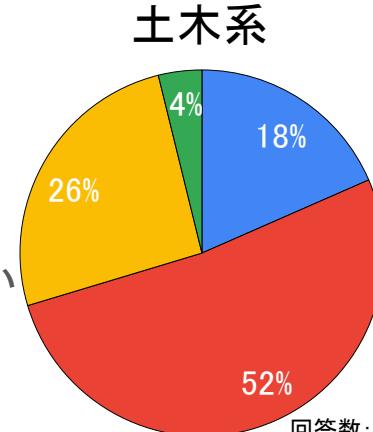
## 設問一覧

8. 働き方や社会からの評価に関する意識	
8-1	仕事や研究を遂行するにあたって、安全性、経済性の確保、法令遵守、期限順守など高い倫理観が求められることにより、現在の状況に <b>ストレスを感じていますか？</b> 社会人経験者の方は、過去の経験を踏まえストレスの感じ方についてどのように考えますか？
8-2	ストレスを感じる方にお聞きします。どうしたら <b>ストレスが軽減できる</b> と思いますか？(2つまで選択可)
8-3	①建設業全体に対して、 <b>担い手、働き手の待遇は適正だと思いますか？</b> ②建設業全体に対して、担い手、働き手の待遇は、どのような <b>改善がなされるべきだ</b> と思いますか？特に有効だと思うものを選択して下さい。(2つまで選択可)
8-4	①建設技術者の <b>社会的な地位は、適正に評価されている</b> と思いますか？ ②建設技術者の社会的な地位が適正に評価されていないと感じるのはどのような時ですか？(2つまで選択可) ③建設技術者の社会的な地位が適正に評価されるためには、どのような改善がなされるべきだと思いますか？(2つまで選択可)

8-1.仕事や研究を遂行するにあたって、安全性、経済性の確保、法令遵守、期限順守など高い倫理観が求められることにより、現在の状況に**ストレスを感じていますか？**



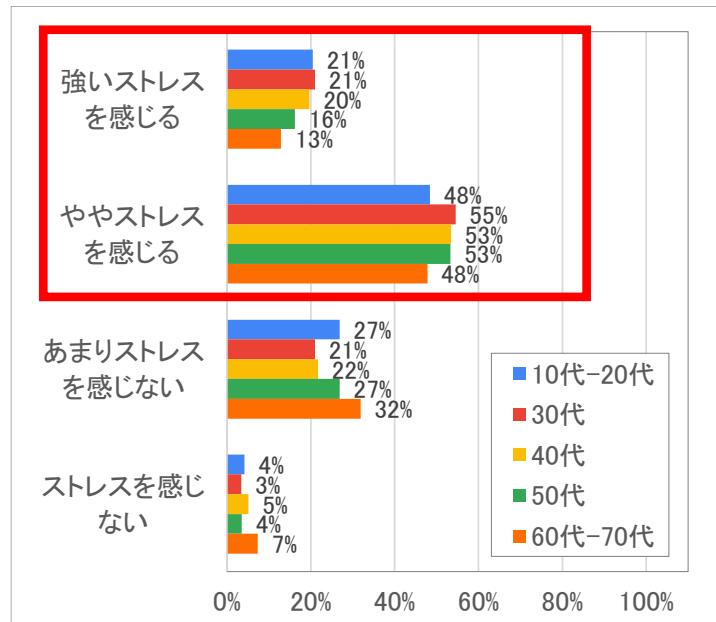
■強いストレスを感じる  
■ややストレスを感じる  
■あまりストレスを感じない  
■ストレスを感じない



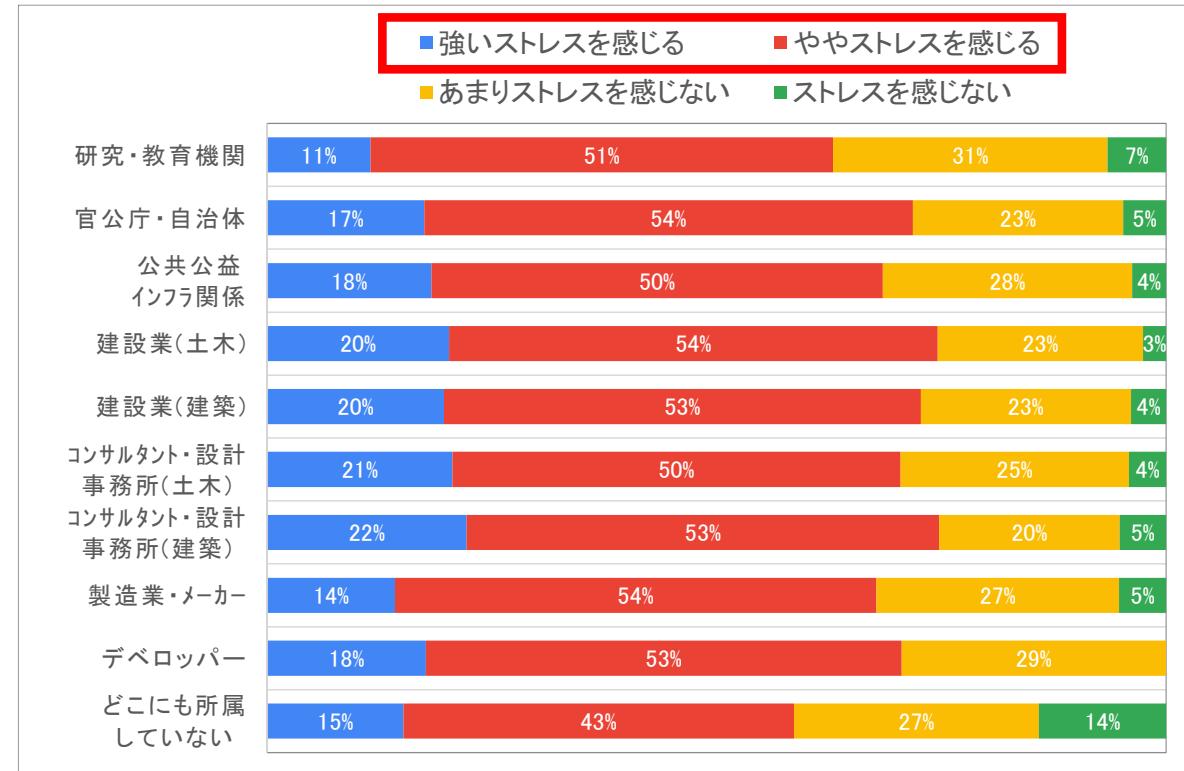
- 土木系/建築系とも7割がストレスを感じている。割合はほぼ同じ。

## 8-1.仕事や研究を遂行するにあたって、安全性、経済性の確保、法令遵守、期限順守など高い倫理観が求められることにより、現在の状況にストレスを感じていますか？

### ・年代別



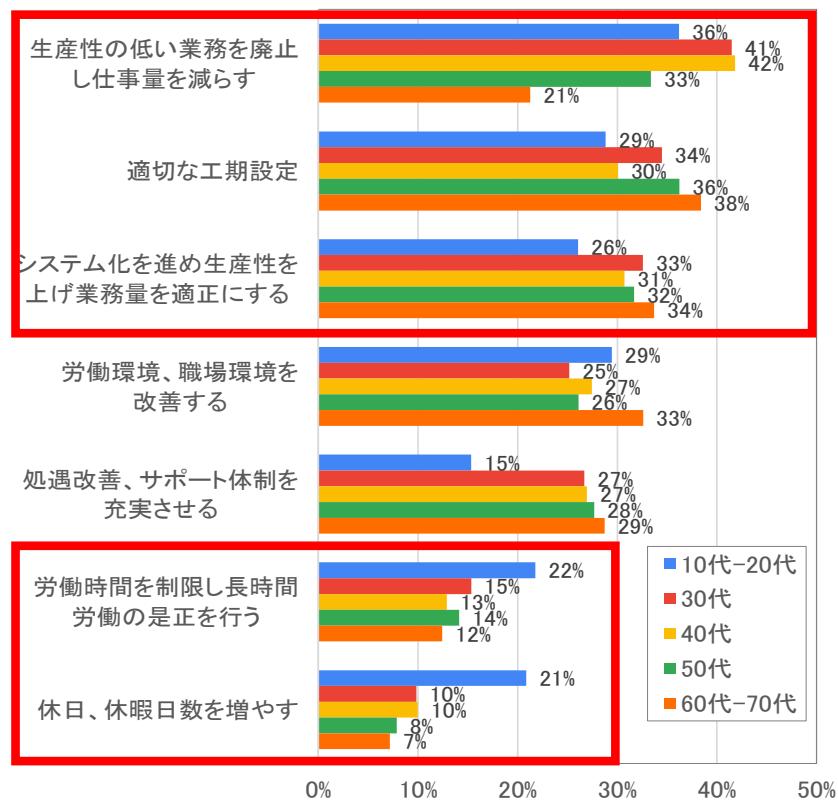
### ・業種別



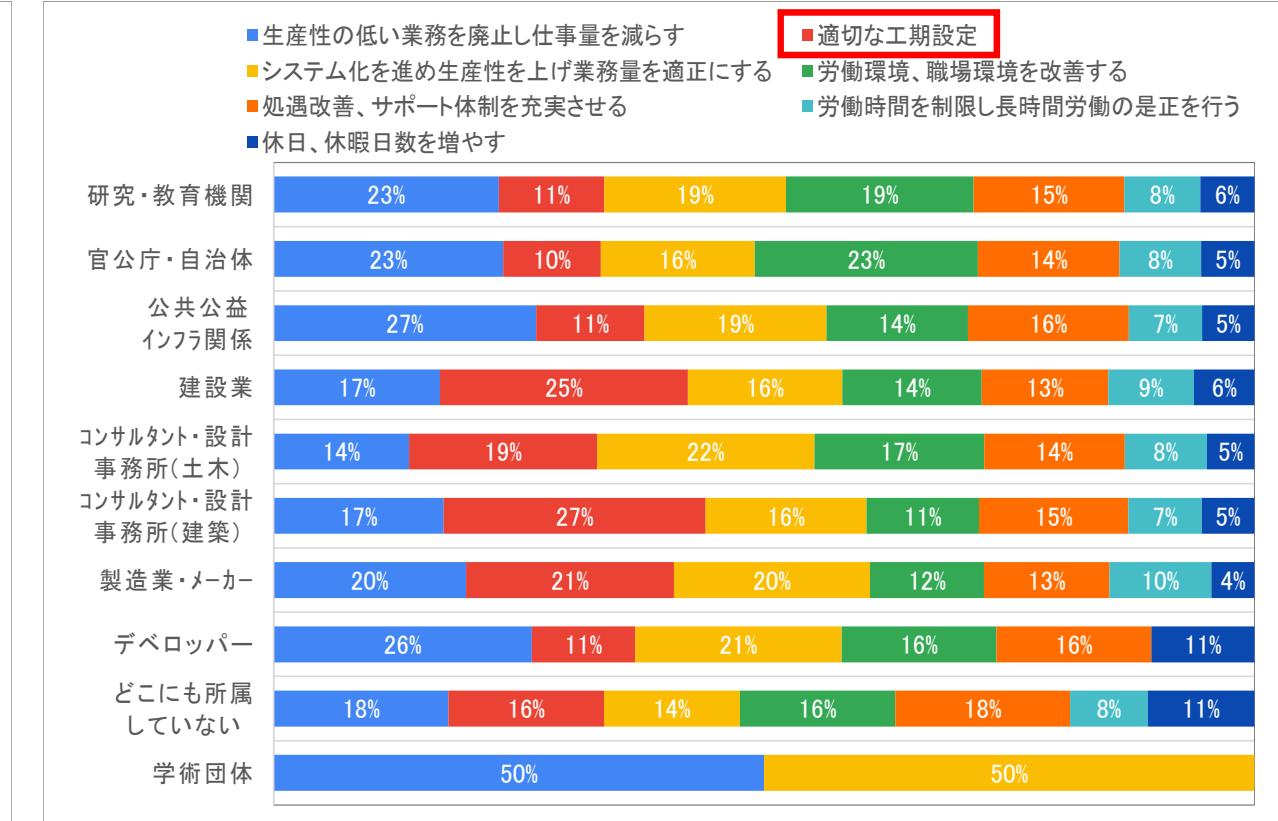
- 30代が最もストレスを感じている。
- 30代をピークとしてストレスを感じる割合が漸減する。
- 土木・建築、業種に関わらずストレスを感じている。

## 8-2.ストレスを感じる方にお聞きします。どうしたらストレスが軽減できると思いますか？（2つまで選択可）

### ・年代別



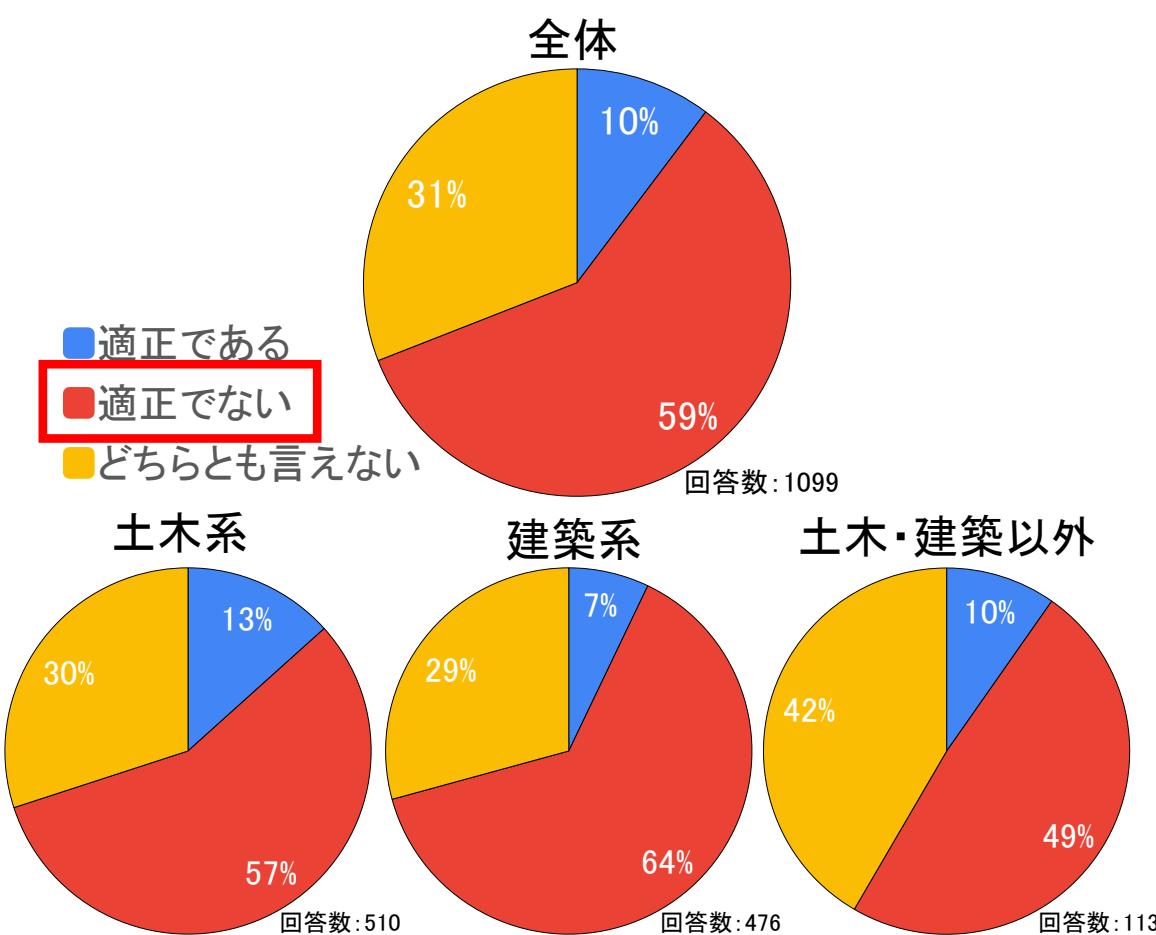
### ・業種別



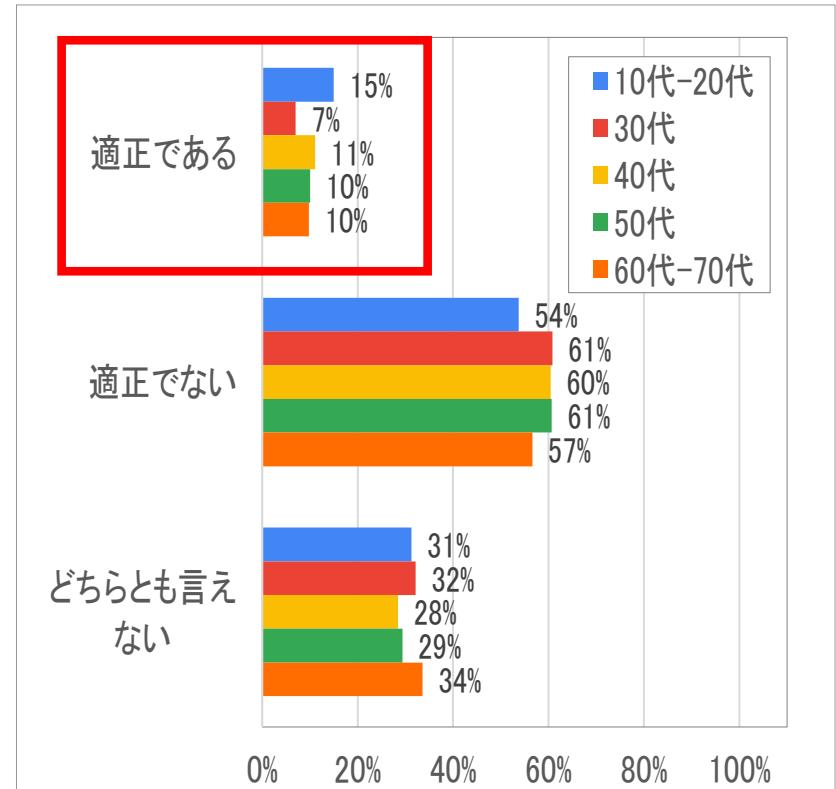
- 50代までの現役世代は、「仕事量を減らす」、「適切な工期設定」、「業務量を適正にする」、「労働環境を改善する」の割合が高い。
- 10~20代は「労働時間の制限、長時間労働の是正」、「休日、休暇日数を増やす」の割合が比較的高い。
- 建設業、コンサル・設計事務所(建築)は、「適切な工期設定」の割合が高い。

8-3.

## ①建設業全体に対して、担い手、働き手の待遇は適正だと思いますか？



### ・年代別

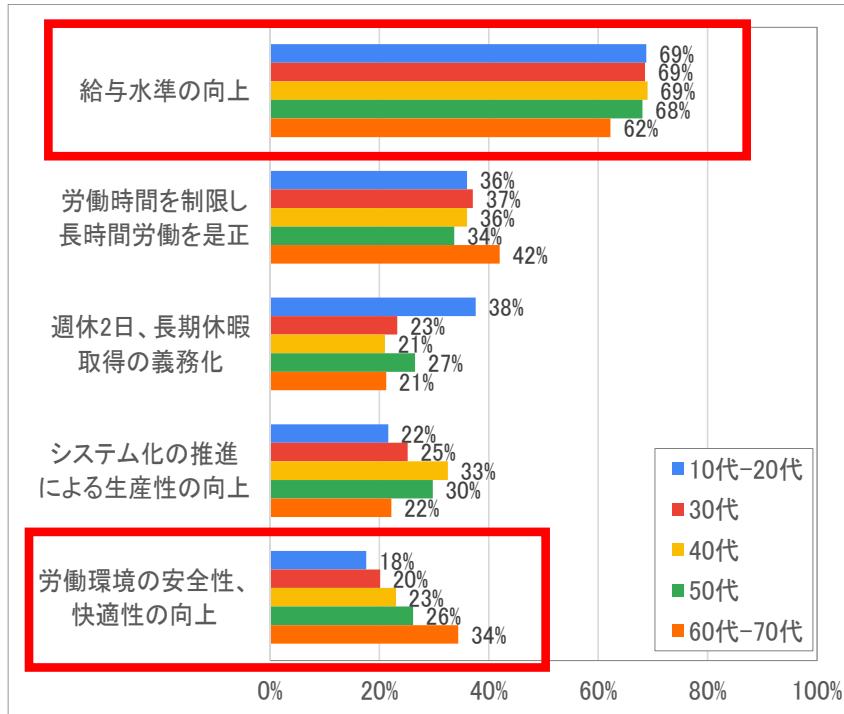


- ・ 土木系、建築系ともに待遇が適正で無いとの割合が6割程度。
- ・ 10~20代は待遇が適正であると考えている割合が他の世代より高くなっている。

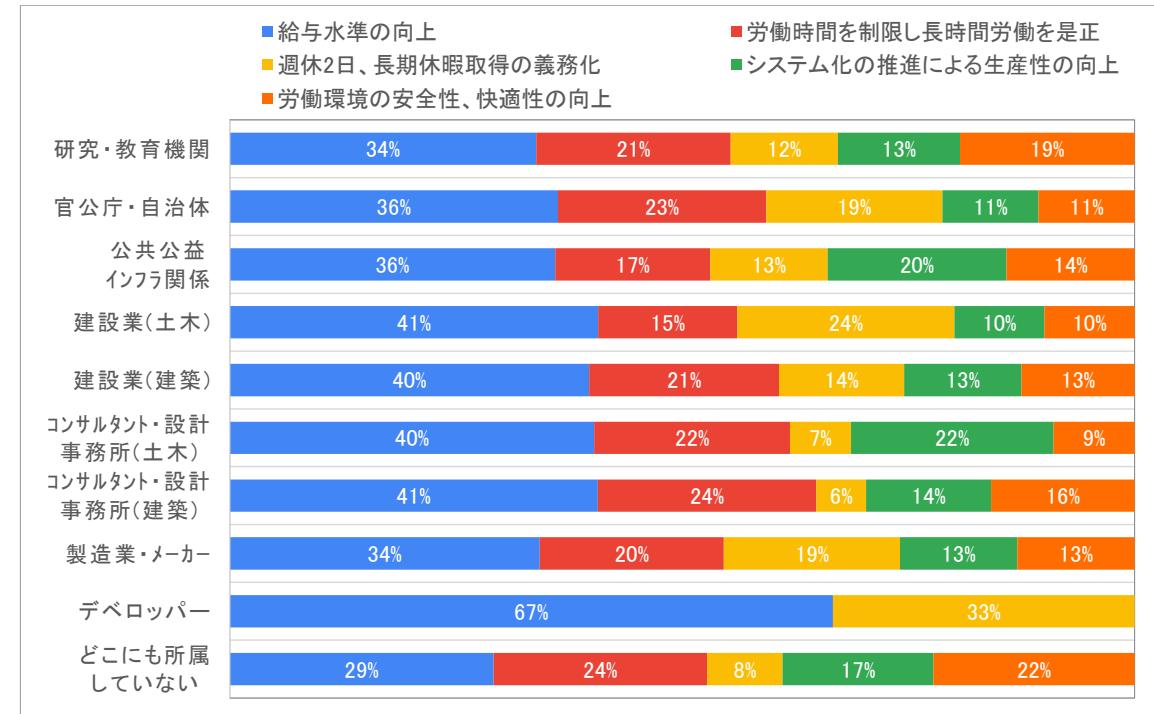
### 8-3.

## ②待遇は、どのような改善がなされるべきだと思いますか？ (2つまで選択可)

### ・年代別



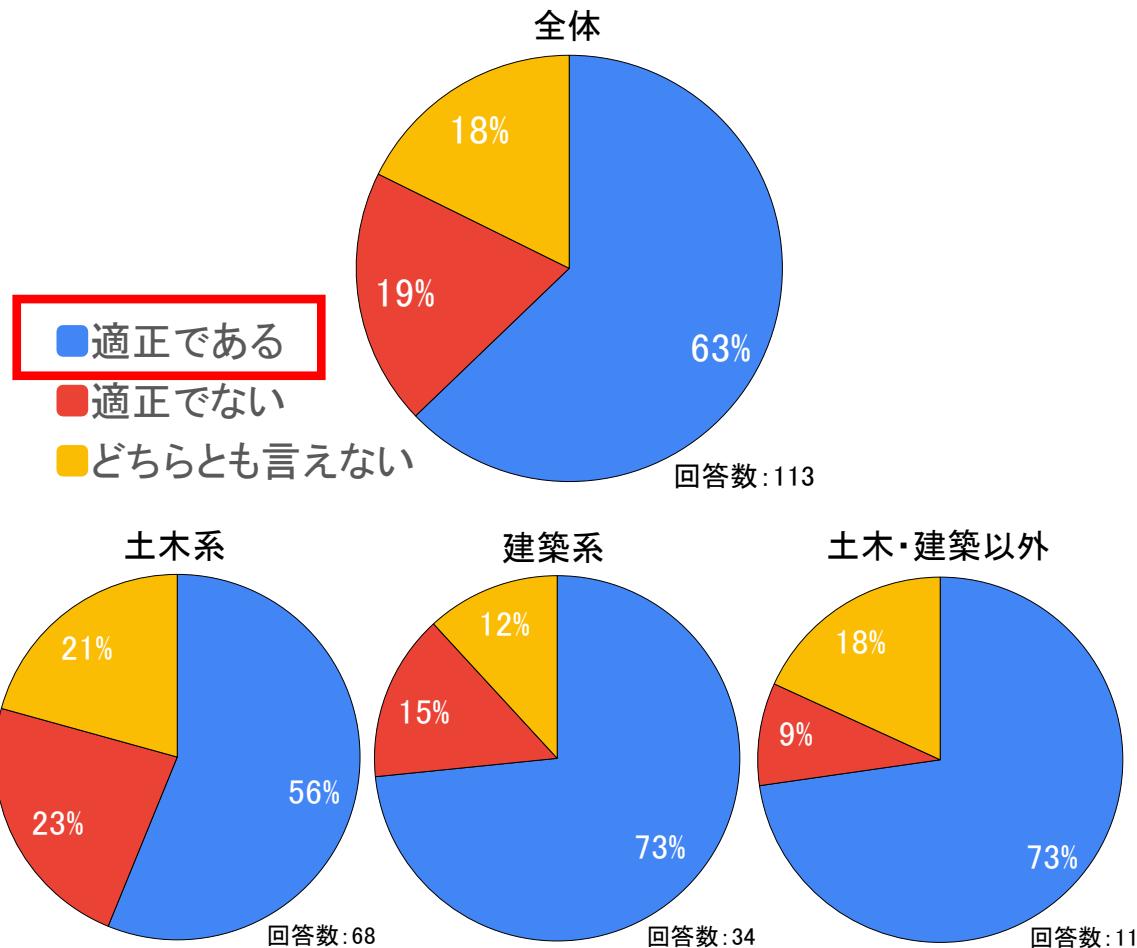
### ・業種別



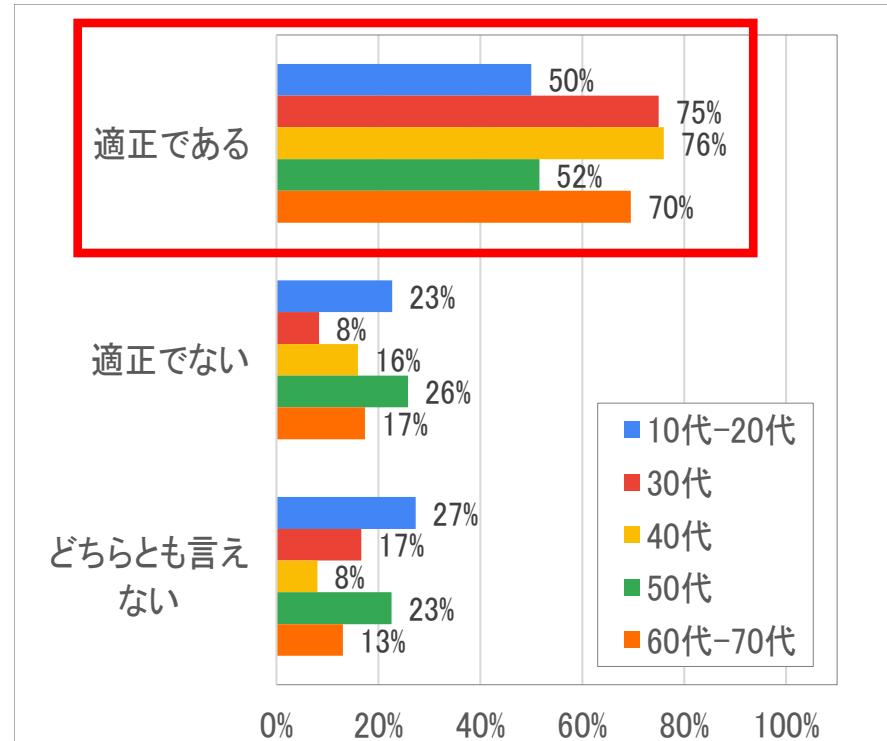
- ・ 給与水準を上げることで待遇が適正になると考えている。
- ・ 年齢が上がるほど、労働環境の安全性、快適性の向上の割合が高くなる。
- ・ 建設業・コンサルタント・設計事務所は、給与水準の向上の割合が高い。
- ・ 官公庁・自治体、建設業(土木)は週休2日、長期休暇取得の義務化の割合が高い。

## 8-4.

### ①建設技術者の社会的な地位は、適正に評価されていると思いますか？



### ・年代別



- 建築系は、社会的な地位は適正と考えている割合が多い。土木系/建築系とも半数以上は適性と考えている。
- 30代、40代で適性と考える割合が多い。

アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。  
今後、次回アンケート実施項目を検討中。例えば、

- ✓ 土木以外の分野からの意見収集
- ✓ 海外の土木技術者(元留学生など)の意識調査
- ✓ WG活動に関係した、DX、脱炭素、災害などに関する詳  
細な意識調査

ご清聴ありがとうございました。